(1ページから続く) てもチェックするよう努めた。

その上で、重視するのが医師との面談 だ。1回あたり1時間、場合によっては それよりも長い時間を使って、何が課題 なのか確認する。現在、大病院の腎臓内 科や血液内科、小児科から近隣の病院ま で担当。医師との面談はaHUSを知る だけではなく、医師の治療方針を知る上 で大事な時間だ。ソリリスを処方した医 師の経験を、処方経験のない医師に伝え るつなぎ役にもなる。

仕

「先生とは、患者さん一人ひとりの治 療ゴールを共有し、それに向けた最適な 処方を話し合うようにしています。例え ば、複雑な基礎疾患がある患者さんもい ますが、血小板の値や腎機能をどこまで 改善させるのがよいのか、それを達成し た後は、退院から外来管理を見通した新 たなゴールを提案します。患者さんに薬 が使われた後も、長期にフォローしてい く姿勢が大切だと思っています」

既存患者への治療効果を最大化するの はもちろん、ソリリスが奏効する可能性がある患者 を早期にaHUSと診断してもらうことも重要だ。 医療技術は日進月歩で進化する。aHUSとは別の 疾患だと考えられていた症例でも、それを覆す新し い論文が発表されることもある。論文からソリリス の有効性が示唆された患者像を自分の担当している 医療機関ですぐに確認する。新たに生まれる情報や エビデンスが新しい患者を探し出す糸口 になるからだ。

コツコツと積み上げる作業は、地道な 努力もさることながら、入口段階で"ま ず、やってみよう"という行動力があっ て成立するのかもしれない。新入社員の 頃、当時勤めていた製薬企業の上司から 教えられた、「やってみてダメだったら 仕方ない」を実践してきた。プライベー トでもそれは変わらず、長期休暇には海 外旅行へと飛ぶフットワークの軽さは武 器だ。「ヨーロッパが好きで、ロンドン やミラノはお気に入りの街ですね」。ワ インが好きで、ちょうど友人が東京都内 にイタリア料理店を開き、行きつけの店 がまた一つ増えた。

もともと薬学部に入ったのは、「女性 でも資格を取りなさい」という親の勧め

が大きかったようだが、「もっと勉強をしておけば よかった」と今も密かに後悔している。今では薬剤 師資格を生かして、他に自分にできることはないか と模索するようになり、公益財団法人日本アンチド ーピング機構(JADA)によるドーピングコント ロールオフィサー(DCO)に応募。見事に2次 選考を通過した。いろいろな分野に興味を持ち、 ユニークなところでは日本茶アドバイザーの資格を 持つなど、多分野でのネットワークも広がっている

MRとして幅を広げるだけではなく、深みも求め ていく。変化に対応するだけでなく、自分も変化し



友人のワイン店「ダベルナ・マルコポーロ」で

てきたこれまでの人生。「私が学生の頃は"オーファ ンドラッグ"という言葉があるだけで、中身はよく理 解していませんでした。当時は薬剤がベースでした が、今は疾患、そして患者さんを理解しようとして

aHUS患者への投薬後の情報は、次の患者へと 投与される重要な情報として生かされる。100万人 に2~3人の疾患だからこそ、一つの症例が持つ意 味は重く、そのぶん薬剤を届けられたときの喜びは 大きい。難病と向き合い、「患者さんとそのご家族 が幸せになるために、お手伝いしていきたい」。ず っと変わらない思いが日増しに大きくなっている。





キャリア・ ポジション社長 西鶴 智香

今回も引き続き、女性のキャリア デザインについてお話します。今回 のテーマは働く女性の環境の変化に ついて。

現在日本では、入社する際に性別 の差はなく雇用契約が結ばれている のですが、ほんの30年くらい前ま では、性別によって給与や昇進、 配属までその差がありました。男 性は総合職採用で管理職へのキャリ アパスがあり、女性は地域限定の 一般職、しかも事務職として採用 するという企業が大半の時代でし た。そういった機会の不平等をなく すために1986年に男女雇用機会均 等法が施行され、現在に至っていま

私が大学を卒業したのは90年で す。その頃高校を卒業し4年制大学 に進学する女性は20%弱。5~6 人に1人の割合でした。当時は就職 の際には、結婚して退職までの勤務 年数が長いとされる、短大卒や高卒 の女性が積極採用される時代。私た ち大卒女性は、男性と同じ転勤のあ る総合職を目指すと歓迎されました が、事務職希望者には大卒は不利だ ったのを覚えています。

さて、時代は変化し、今や女性の 大学進学率は約半数です。現在の日 本の職場では男女差を感じることが 少なくなっただけでなく、同僚には 外国人がいたりして、多様性を受け 入れられる社会になっています。皆 さんも小学校から今まで性差を感じ ることは少なかったのではないでし ようか。

では、今もなお「女性のキャリア」

というテーマが取り上げられるのは なぜでしょう。今や、日本の企業で も出産休暇や育児休暇は制度化さ れ、整備されていますので、結婚後 も働き続ける女性は多くなりまし た。しかし現実的には、女性は出産 後、家事、育児のほとんどを担当し、 まだまだ男性の家事協力時間は少な く、そのせいで正社員からパート職 に変わるなど、いったん働き方を見 直す人が多くいます。

前回話した、女性のキャリアデザ インは男性にも関わるテーマだとい うのはそういうことです。男性の家 事や育児の協力なしでは、女性のキ ャリアデザインは自分の思うように 描けないのが現実です。次回は結婚 しないという選択と仕事について取 り上げます。

薬学生のための求人情報サイト

プレOPEN中! 先行登録受付



http://www.pha-net.jp/

ファーネット

検索





http://www.univ.co.jp

大阪本社 〒530-0047 大阪市北区西天満 3-4-15 公冠ビル 2F 東京支社 〒107-0052 東京都港区赤坂 3-2-2 日総第 24 ビル 7F

名古屋支社 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 I-23-14 ISE 名古屋ビル 7F 九州支社 〒810-0001 福岡市中央区天神 4-6-7 天神クリスタルビル 14F

